

防災科研の災害対応を振り返る

防災科研は、「基盤的防災情報流通ネットワーク、旧名：府省庁連携防災情報共有システム」(SIP4D)を活用した災害対応支援として、現地の災害対策本部に研究員を派遣し、地理空間情報をベースとした災害情報共有活動を実施してきた。2018年には内閣府との官民合同チームとして災害時情報集約支援チーム (ISUT) を試行的に立ち上げ、2019年から正式に設置されることとなった。その間、多くの自然災害が発生し、その都度現場での有効性が検証され、その方法や技術が磨かれ、徐々に現場での信頼も得られるようになってきた。ここでは防災科研の災害対応のこれまでの歩みを振り返る。

2014 SIP4D 開発開始

- 日本初の府省庁連携防災情報共有システムを目指して
- 保健医療、ため池をケーススタディとして連携開始

2015 災害対応開始

平成27年9月
関東・東北豪雨
現地対応期間
9/11~9/30
@常総市役所

- SIP4D チーム初の災害対応
- 市災対本部と DMAT をつなぐ情報共有
- 災害対応現場重視の開発体制へ



2016 現地災対を支援

平成28年
熊本地震
現地対応期間
4/15~8/31
@熊本県庁

- 防災科研初の全所対応
- SIP4D プロトタイプ投入・検証
- 内閣府「災害情報ハブ」設置へ



2017 実動機関を支援

平成29年
九州北部豪雨
現地対応期間
7/6~7/31
@福岡県庁

- 自衛隊・消防・警察等の中で情報共有
- 内閣府「ISUT」設置へ



2018 ISUTの試行

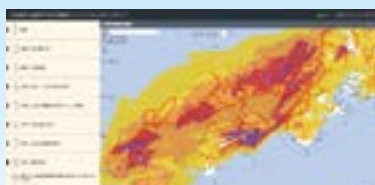
平成30年大阪府
北部の地震対応
現地対応期間
6/18~6/22
@大阪府庁

- 試行訓練から実践投入へ
- 民間データ+行政データ
→自衛隊の入浴支援の意思決定に活用



平成30年
7月豪雨対応
現地対応期間
7/7~8/9
@広島・岡山・愛媛県庁

- 初の広域災害対応
- 複数道路データの自動統合
- 複数組織の中心に「SIP4D」
を置いて議論



平成30年北海道
胆振東部地震
現地対応期間
9/6~9/28
@北海道庁

- 自衛隊機に同乗して現地入り
- 災対本部の中心に設置



2019 SIP4D活用技術開発 ISUT本格運用

■ 防災科研運営費交付金による研究開発へ



■ ISUT が防災基本計画に明記



令和元年
6月下旬の大雨

現地対応期間

7/3~7/5
@鹿児島県庁

■ ISUT 本格運用開始後、初の現地派遣



令和元年
8月下旬の大雨

現地対応期間

8/28~9/4
@佐賀県庁

■ 実効雨量+SNS 解析による災害動態解析
■ 油流出 土砂災害などの二次被害への対応



令和元年
房総半島台風
(台風第15号)

現地対応期間

9/10~10/4
@千葉県庁

■ ISUT統一フォームの提案による倒木除去協働支援
■ 防災チャットボットの展開



令和元年
東日本台風
(台風第19号)

現地対応期間

10/13~11/20
@長野・福島県庁ほか11ヵ所

■ 衛星データによる広域被災状況解析
■ 府省庁からボランティアまでをつないだ廃棄物撤去協働支援



2020 災害対応の高度化

令和2年
7月豪雨

現地対応期間

7/4~7/29
@熊本・鹿児島各県庁

■ 時々刻々と変わる災害動態情報の提供
■ ISUT-SITE を組織が自ら活用

